

「地域における小児歯科・その機能と展望」

○岩井泰介、入江英仁、瀬尾令士、逢坂亘彦
松本晋一（熊本小児歯科懇話会）

昭和58年秋の第1回九州地方会より15年を経た今、改めてこの地域における小児歯科に求められる機能について、当懇話会としての私的展望を試みた。

1) 熊本の小児歯科的背景

	S59年	H9年	増減
人口	1 8 2.6 千	1 8 6.4 千	102%
出生数	2.4 千	1.8 千	74%
1.5才う歯率	6.5 %	7.6 %	117%
3才う歯率	6 4.3 %	5 1.3 %	80%
歯科医師数	6 7 9	1 0 1 1	149%
小歯学会員数	2 0	4 4	220%
小歯専門医数	0	3	

2) 充足されつつある小児歯科機能

- ①ブラッシング主体の予防意識向上
- ②予防填塞、咬合誘導治療の増加
- ③行政地区による健診・指導システムの構築
- ④食教育・食生活指導

3) 現在まだ不足と思われる機能

- ①母親・妊産婦への個別教育システムの確立
- ②個人及び集団へのフッ化物の効果的応用
- ③小児歯科の情宣及びボランティア活動
- ④学校保健への主体的参加

4) 今後、時代と共に必要な機能

- ①家庭や地域に適した健康価値観への支援
- ②小児の保健医療の人的ネットワークづくり
- ③小児定期管理システムの制度化
- ④小児の歯科医療ニーズの地域的検討

5) まとめ

健康と病気は家庭や地域と医療者が一体となって捉えるべきテーマである。その中でも健康小児歯科学の求めるもの、小児歯科医でなければ出来ない役割を模索してゆきたい。

鹿児島県の学校歯科健康診断の現状

○豊島正三郎、屋敷 徹、鬼塚一徳、
大殿雅次、松田哲明
鹿児島県学校歯科医会

【目的】平成7年に学校歯科健康診断の改正が行われて3年以上が経過し、健診現場および事後措置などにおいて様々な問題点が出始めてきた。発達期の“学校歯科健康診断および事後措置”は、歯の交換、それに伴う歯列・咬合の変化、齲蝕罹患率の高さなど口腔の健康を考える上で重要であると考えられる。

そこで、学校歯科健康診断の現状を把握し、その問題点を整理することを目的として、アンケート調査を行ったので報告する。

【対象および方法】鹿児島県内の養護教諭を対象に、勤務している学校の歯科健康診断の実態についてアンケート調査を行い、小学校233校、中学校84校、高等学校68校、その他の学校（小中併設校、中高併設校、養護学校、特殊学校）28校の計413校より回答を得た。

アンケート内容は、学校の所在地、学校の別、学校の規模、児童生徒数、校医数、健診現場での問題点、事後措置などについてである。

【結果および考察】今回の調査項目のうち、最も多く挙げられた点は“CO・GOについて”であり、CO・GO自体の意味、データ集計時の取り扱い、指導・通達方法、事後措置などについて戸惑いや混乱がみられるようである。また、判定基準の“0・1・2”への理解も不十分なようである。その他、健診時間の制約、健診器具の不足、感染の問題、校医の健診項目への理解不足、健診項目の診査漏れ、プライバシーの保護、矯正治療により抜去された歯の取り扱いなどの問題点が挙げられていた。

今回の結果より、学校歯科健康診断が、円滑かつ有意義に機能するためには、改正後の内容に対する関係者の早期の周知、徹底が望まれるとともに、校医数、健診器具数、健診時間などの問題についても、さらに検討していく必要があると思われる。